



教育目標 わたしから考える子 にこにこ元気な子 つづけてがんばる子 こころを合わせる子
わにっこり

和邇小だより 令和7年 11月号
児童数377名 文責 澤村幸夫



11月は 「ありがとう」 の月



屋上の展望台から北を見ると、比良山系の山々が広がっています。東を見ると琵琶湖が現れ、自然いっぱいの景色が実に美しいです。あらためて、和邇地域の魅力を感じた瞬間でした。空を見上げると「うろこ雲」、雄大な積乱雲が空を覆った暑い夏が終わって、秋から冬に近づくと、空には違った雲が現れてきます。「天高く馬肥ゆる秋」ということわざにもあるように、秋の空は空気が透明で青く澄み渡っています。その秋のゆるやかな上昇気流が生む代表的な雲には「うろこ雲」や「ひつじ雲」そして「すじ雲」などがあります。雲には二度と同じ形に出会うことができないおもしろさと美しさがあります。次々と変化していく雲を見ながら「何という名前の雲だろう」「どうしてできたのだろう」「そこで何が起きているのだろう」と想像力や好奇心をかき立てられるごく身近で不思議な自然現象です。だからこそ見ていて飽きませんし、人によっては時を忘れるほどの力をもっています。毎日見る空と雲ですが、こうして少し見方を変えてみると、その日の新しい出会いと発見があるかもしれません。

さて、11月は「ありがとう」の月とされています。11月23日は「勤労感謝の日」という祝日があり、アメリカでは11月の第4木曜日に「サンクスギビングデー」があります。秋の収穫を神に感謝するお祭りです。日本の神社で行われる「新嘗祭」(にいなめさい)も、その年の収穫を祝うお祭りです。11月は、このように収穫に対する「感謝」の気持ちを秘めた月だと言えます。



「感謝」を表す言葉で、誰もが大好きな言葉に「ありがとう」があります。「ありがとう」の5文字には、とても魅力的で強いパワーが秘められています。実際、「ありがとう」の言葉をもらうと嬉しくなりますし、他人に「ありがとう」と言うと幸せが深まり、温かい気持ちになれます。

子どもたち一人ひとり得意なこと、苦手なことがあることは当然であり、それが個性でもあります。互いの頑張っているところを見つけ、賞賛し合うことができれば、学校はさらに居心地のよい素晴らしい場所になります。「みんなちがって、みんないい」頑張っている姿を見つけたら、「ありがとう」「いいね」と互いに声を掛け合う和邇小学校にしていきたいです。



10月10日(金)に運動会を開催しました。多くの保護者や地域の皆様の温かなご声援に支えられながら、子どもたちは教職員とともに全力で最高の運動会をつくることができました。

演技や競技をしているとき、子どもたちの誇らしげな笑顔が輝いていました。たくさんの練習を積み重ね、本番でやり遂げた達成感を仲間とともに共感することができたからだと思います。仲間を大きな声で応援する姿もたくさん見られました。競技する側もたくさんの声援や拍手を受け、幸せな気持ちと自信が高まります。係の仕事にてきぱきと動いていた6年生はさすがです。この高学年の姿はみんなの憧れになりました。

運動会は、学校の中でも大きな行事の1つです。運動会当日だけでなく準備や練習を通して、様々な場面やそれぞれの立場から子どもたち一人ひとり多くのことを学び大きく成長しました。子どもたちとともに準備をしてきた教職員の力も大きかったと思います。そして、いつも温かく見守り

ながらご協力いただいている保護者の皆様、地域の皆様に感謝申し上げます。当日の様子をダイジェスト版として短い動画にまとめたので、ぜひご視聴ください。

運動会ダイジェスト

紙面配布のみ表示



期間限定 11/1~11/30

運動会後の月曜日、学校のポストに匿名での一通のお手紙が届いていました。中を開けてみると、運動会を参観いただいたお婆様からの、温かいメッセージでした。このお手紙をいただいたことをたいへん嬉しく思いましたので、全文を紹介させていただきます。巻頭言でも書きましたが、感謝の言葉がこれほど嬉しく、人に勇気を与えるものであることを、しみじみ感じ取ることができました。本当にありがとうございました。

前略

昨日の運動会で大感動いたしましたので筆をとりました。

孫が6年生で、小学校最後の運動会でした。大体毎年、観に行っておりましたが、こんなに児童達がキラキラした目で演技しているのを見て感動しました。特にソーラン節、エイサー、フラッグ・・・又、リレーも全力で頑張る子供達を見て、とても嬉しく涙が出そうでした。真剣さが半端なく心が伝わってきました！

さぞや先生方が一生懸命ご指導下さったのだろうな、とそこにも感動。アカペラでお忙しいでしょうに歌詞を覚えられた先生。その先生のお心に子供達も答えたのでは、なんて思った次第です。

感想を書いた事、今迄なかったです。こんなに運動会ってすばらしかったんだ！と。改めて感謝致しております。ありがとうございました。

6年生の一祖母より

2年 げんき村 校外学習

2年生は、げんき村に出かけました。電車に乗り、坂道を登り到着。クラフトをしたり、遊具で遊んだりしました。短い動画にまとめましたので、ご視聴ください。



2年 げんき村

紙面配布のみ表示



期間限定 11/1~11/30

5年 オーパル自然体験

5年生は、10月3日に「オーパル」に自然体験学習に出かけました。カヌー体験、ドラゴンボート、

よし笛づくりをしました。自然を満喫する貴重な体験ができました。

5年 オーパル

紙面配布のみ表示



期間限定 11/1~11/30





第8弾 「子どもの自己肯定感」

このコーナーは、子育てと子どもの幸せをサポートする情報を提供するニュースレターです。子育てのヒントやこれからの時代に大切にしたい教育の話、健康で幸せな生活に役立つ情報を掲載したいと考えています。未来をたくましく生

きる子どもたちにつけてほしい本当の力とはいったい何か、子どもが生涯にわたり幸せに生きていくには、周囲の大人はどんな関わりを大切にしていけば良いのかについて、共に考えていきたいと思います。

第8弾は、「子どもの自己肯定感」です。これまでのこのシリーズで何度か取り上げてきましたが、子どもに幸せな人生を送ってもらいたいと考える保護者は、まずは子どもに高い自己肯定感を身に付けてもらいたいと願っておられます。脳科学という研究分野が大きく進展した現在、人は何歳になっても性格や能力が変えられるということが分かってきています。では、「三つ子の魂百まで」と昔から言われていますが、これは嘘なのか、ということになりますが、そうではなく、それなりの根拠があります。

それは、子どもの脳と大人の脳の違いにあるからです。脳波は、物事を分析するときに出るベータ波、リラックスしているときに出るアルファ波、うとうとし始めるときに出るシータ波、そして完全に寝ているときに出るデルタ波に分かれます。3歳までの子どもの脳波はほぼ100%デルタ波またはシータ波です。12歳ごろからやっとベータ波が出てきます。赤ちゃんが寝てばかりいるのはこのためです。12歳以下の子ども、特に3歳までの子どもは、分析思考がまったくできないので、聞いたことを本当か嘘か分析することなくそのまま信じてしまいます。子どもが生まれて初めて接する環境であるご家庭でこの時期に保護者からどんな声かけをされるかで子どもの「最初の」自己肯定感が決まります。

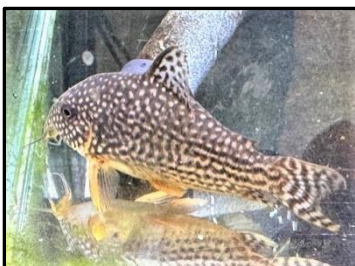
自己肯定感とは、これまでから何度も伝えてきましたが、「ありのままの自分を無条件に受け入れ愛すること」と定義されています。よく混同されてしまう「自分は何かができる」という自己効力感は含まれていません。つまり、自己肯定感とは、何ができる、できないにかかわらず、自分は素晴らしい、生きるに値する人間だと思える気持ちのことです。大人になってから本人の意思で自己肯定感を高くすることが可能であるとはいえ、はじめから自己肯定感が高く育つに越したことはありません。では、12歳までの小学生の間に、具体的にどんな言葉をかければ良いのでしょうか。

一番簡単で効果的なのは毎日朝晩「〇〇ちゃん、おはよう」「〇〇ちゃん、おやすみ」と子どもの顔をしっかり見て笑顔でにっこり言うことです。さらに「あなたが生まれてきてくれて本当に嬉しい」「大好き!」「あなたは私の宝物」という言葉がけを日々心を込めて行うことです。すると、子どもは自分の存在そのものに価値がある、能力には関係なく愛されていると理解します。ちょっと恥ずかしい気持ちもありますが、これに勝るものはありません。すでに、実行されている保護者も多いと思いますが、不十分な方は、今夜からどうぞ。

一方、自己肯定感を下げる言葉がけは数多くあります。「なぜそんないたずらばかりするの?」これは、後に学習意欲につながる好奇心に蓋をし、成長に必要な探求心を奪ってしまう可能性があります。「どうしてこんなこともできないの?」これは、子どもには答えられません。できない自分は親から愛されないと理解し、自分の価値を能力という条件で決めてしまうようになり、自己肯定感は低下します。親は子どもをジャッジするのではなく、いつもあなたの味方、あなたをサポートするよということを伝えることが大切です。「どうしたらできるようになると思う?」「一緒に考えてみようか」「できていたところまで戻ってみようか」こんな声かけにすることで、親はいつも自分の味方だという安心感を与え、能力にかかわらず愛されていると実感でき、子どもの自己肯定感は確実に高まります。



学校のレッドビーシュリンプ
本文との関連はありません。



学校のコリドラス・ステルバイ
本文との関連はありません。